

衛研ニュース

No. 193



＝親子で見学・体験ツアーを開催しました＝

令和元年7月31日に衛生研究所において「親子で見学・体験ツアー」を開催しました。今年も科学に興味を持つ子供たちが積極的に参加してくれました。写真は、ツアーに向かうために白衣を着て準備をした子供たちを記念撮影したものです。活動内容の詳細は4ページをご覧ください。

も く じ

- | | | | |
|----------------------------------|-------|-------|-----|
| ※ ザンビア大学医学部小児科教授 ムイラ先生ご来所 | | 水田 克巳 | (2) |
| ※ 第28回山形県食品衛生推進大会「食の安全推進交流会」での講演 | | 本間 弘樹 | (3) |
| ※ 令和元年度 衛研「親子で見学・体験ツアー」を開催しました! | | 細谷 翠 | (4) |

基本方針

県民の生活と健康を支えるため、
緊密な連携をもとに次のことを心がけます。

- 1 信頼される検査結果及び研究成果の提供
- 2 高い倫理観を持ち、知識、科学技術の修得育成
- 3 地域社会へ、わかりやすい保健情報の迅速な提供
- 4 公衆衛生向上のための医療、福祉との密なる連携
- 5 新たな創造へ、和をもって意欲的にたゆまぬ努力

編集発行

山形県衛生研究所

令和元年9月10日発行
〒990-0031 山形市十日町一丁目6番6号
Tel. (023) 627-1108 生活企画部
Fax. (023) 641-7486
URL ; <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp>

ザンビア大学小児科教授ムイラ先生ご来所

衛研ニュース前号 (No. 192) で“東北大学と共同研究者チーム (日本を除くと5ヶ国) の施設見学受け入れ” (2019年3月1日実施) という記事を書きました。今回も、東北大学大学院医学系研究科微生物学分野の押谷仁教授からのご依頼で、ザンビア大学医学部小児科教授のムイラ先生に5月22日ご来所いただくことになりました (写真1)。

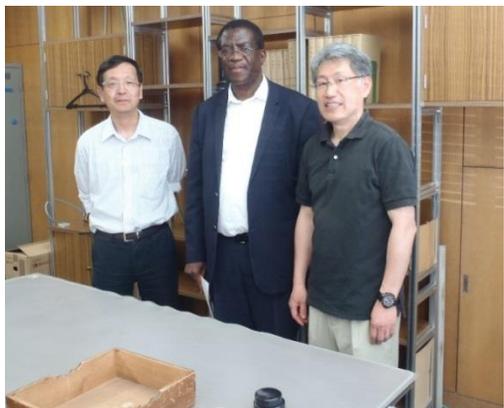


写真1 向かって左から押谷教授、ムイラ教授、水田 (所長室)

ザンビアは南部アフリカにある内陸国で、旧北ローデシアであり、英国からの独立国です (地図1)。ジンバブエとの国境にあるビクトリアの滝で有名です (写真2)。

ムイラ先生は、私が1993~1995年に国際協力事業団派遣長期専門家 (ウイルス学) としてザンビアに派遣 (写真3) される直前、国立仙台病院 (当時・現独立行政法人国立病院機構仙台医療センター) ウイルスセンターに1年間の研修にいらっしゃいました。ウイルス学の勉強をするいっぽう、学会参加や施設見学を兼ねて国内各地を一緒に回りました。彼によれば、札幌、広島、福井、京都などを訪れ、私は“良きツアーガイド”だったそうです。押谷教授は私より一足先にザンビアに行かれ、ザンビア大学教育病院の敷地内にウイルス実験室を整備されました (写真4)。私は、現地へ赴任しての1年目、検査・研究室の運営を押谷教授とご一緒させていただきました。ザンビアのいろはをご教示いただいたことはもちろん、私はまだ独り者だったので、よく押谷家で食事をご馳走になるなど、大変お世話になりました。

今回は、当所微生物部の実験室をご覧いただきながら、ザンビアの近況についてもいろいろお聞きする

ことができました。日本の援助で拠点となる病院がザンビア国内で数多く整備され、さらに建設中のものであるとのことで、大変素晴らしいことだと思いました。私の赴任当時は医学部の学生は20~30人程度しかいなかったと思います (へたな英語でウイルス学の講義をしたことがありました) が、現在ではザンビア大学の医学部だけで150人、その他にも医学部ができており、医師が多数誕生しているそうです。しかも、かつては医師が給与の違いなどから、ザンビア国外へ流出することが多々あったのですが、近年は卒業生がザンビア国内にとどまることはもちろん、政情不安があるコンゴ共和国からも流入しているということで、状況は大きく改善しているようです。



地図1 ザンビアと周辺諸国の位置関係

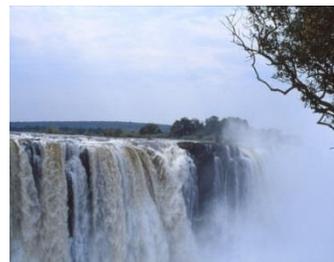


写真2 世界三大瀑布の1つであるビクトリアの滝 (水田撮影)



写真3 ザンビア赴任当時の私とウイルス実験室スタッフ (私の隣がムイラ先生)

ムイラ先生の研究テーマの1つがロタウイルスですが、ザンビアでもワクチン投与が始まり、胃腸炎の患者数が激減したとのことでした。麻しん（はしか）もワクチン接種率向上により非常に少なくなっており、発展途上国で肺炎や胃腸炎（による脱水）で多くの子どもたちが命を落としてきた中、ワクチンが大きな恩恵をもたらしてきている状況がよくわかりました。その一方、遺伝性の貧血病である鎌状赤血球症（かまじょうせつけっきゅうしょう）の患者が多発していたり、小児科では1つのベッドを数名の子どもたちが共有していたり、日本とは異なる状況も続いているとのことでした。

ムイラ先生は教授となられ、現在は後進の指導に使命感をもっておられます。押谷教授もそれをバックアップすべく、ザンビアや世界保健機関(WHO)での経験を生かしながら、ザンビア・フィリピンをはじめとした諸外国の公衆衛生の向上にご尽力されています。私はといえば、Yamagataから、世の中のウイルス感染症対策に寄与できるような疫学研究を続けることを意識してきました。それぞれの立場で、

1990年代にザンビア国感染症対策プロジェクトに参加した当時の心が現在も受け継がれているということなのかもしれません。

山形県衛生研究所は、これからも、山形、日本、世界という広い視野をもって公衆衛生の向上に寄与できるよう精進していきたいと考えます。県民の皆様のご理解とご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

(所長 水田 克巳)



写真4 1992年国際協力事業団の援助によりザンビア大学教育病院内にウイルス実験室が開所された

第28回山形県食品衛生推進大会「食の安全推進交流会」での講演

令和元年7月18日、山形市の「山形ビッグウイング」を会場として「山形県の特徴的な食中毒について」講演を行いました。

これは、県が関係機関とともに推進する食の安全性と信頼性の向上を高める取組みの一環として、毎年開催しているものです。

当日は、約280名の参加者の中、主催者である公益社団法人山形県食品衛生協会会長の大会趣旨あいさつ、上記のほか、「HACCPに沿った衛生管理の制度化について」の講演、パネルディスカッション、意見交換会、大会宣言、スローガン朗読などが行われました。

なお、本講演では、当県で発生事例の多い植物性自然毒（毒キノコを含む）による食中毒事例や平成30年間の傾向などを紹介し、食中毒を防ぐための必要な知識について説明しました。続く、意見交換会では、食中毒発生の要因を県民に広く周知する必要があるのではとの意見が寄せられ、自然毒による



「食の安全推進交流会」での講演の様子

食中毒の原因物質検査体制整備の充実の他、食中毒防止の啓発活動についても関係機関と協力して行っていく必要があると強く感じた交流会でした。

(理化学部 本間 弘樹)

令和元年度 衛研「親子で見学・体験ツアー」を開催しました！

令和元年7月31日に当所にて、令和元年度 衛研「親子で見学・体験ツアー」を開催しました。気温が30度を超える暑い中、県内の親子6組に参加していただきました。

子どもたちは白衣に着替えて記念撮影をし、「ジュニア研究員」として各部で用意された実験を体験しました。理化学部では野菜の色の変化を見る実験、微生物部では顕微鏡を覗いて身の回りにいる微生物の観察を行い、生活企画部ではスポイトを使ってカラフルな水カプセルを作る実験をしました。

子どもたちは最初は少し緊張している様子でしたが、慣れてくると楽しみながら実験に取り組みました。ときには大人の私たちには想像できないところに驚いたり面白がったりと、私たちも子どもたちの発想に大変驚かされました。

閉会式では、ジュニア研究員の認定証を受け取り、立派な研究員の仲間入りを果たしました。「楽しかった、家でもやってみたい!」、「夏休みの良い思い出になりました。また来年も来たいです。」と、子どもたちはもちろん、保護者の方にも大変喜んでいただけました。また、主催者側である私たちにとっても子どもの視点を知ることができ、楽しい1日となりました。

参加してくれた子どもたちには、この日の体験をきっかけに、身の回りの科学に興味を持っていただければと思います。ご参加いただきありがとうございました。

(生活企画部 細谷 翠)



所長からの挨拶



身近な微生物を観察してみよう!
(微生物部)



野菜の色の変化を体験してみよう!
(理化学部)



カラフルな水カプセルを作ってみよう!
(生活企画部)

衛生研究所の論文・学会発表等

発表論文

- 1) Mizuta K, Tanaka W, Komabayashi K, Tanaka S, Seto J, Aoki Y, and Ikeda T: Longitudinal epidemiology of viral infectious diseases combining virus isolation, antigenic analysis and phylogenetic analysis as well as seroepidemiology in Yamagata, Japan between 1999 and 2018. *Jpn J Infect Dis.* 2019;72:211-223.
- 2) Yamamoto K, Takeuchi S, Seto J, Shimouchie A, Komukai J, Hase A, Nakamura H, Umeda K, Hirai Y, Matsumoto K, Ogasawara J, Wada T, Yamamoto T: Longitudinal genotyping surveillance of *Mycobacterium tuberculosis* in an area with high tuberculosis incidence shows high transmission rate of the modern Beijing subfamily in Japan. *Infect Genet Evol.* 2019;72:25-30.
- 3) Seto J, Tanaka S, Murakata T, Sato H, Monma N, Arai R, Ikeda T, and Mizuta K: Scrub typhus caused by Shimokoshi type *Orientia tsutsugamushi* showing variant 56-kDa type-specific antigen gene sequence in Tohoku region, Japan. *Microbiol Immunol.* 2019;63:280-284.
- 4) Seki F, Miyoshi M, Ikeda T, Nishijima H, Saikusa M, Itamochi M, Minagawa H, Kurata T, Ootomo R, Kajiwarra J, Kato T, Komase K, Tanaka-Taya K, Sunagawa T, Oishi K, Okabe N, Kimura H, Suga S, Kozawa K, Otsuki N, Mori Y, Shirabe K, Takeda M, the measles virus surveillance group of Japan and the technical support team for measles control in Japan. Nationwide molecular epidemiology of measles virus in Japan between 2008 and 2017. *Front Microbiol.* 2019;10:1470.

学会発表等

- 1) 水田克巳、田中静佳、駒林賢一、池田辰也、青木洋子、田中和佳、仙道大、市川真由美、豊田健太郎、古山政幸、山口佳剛、永沢光、和田学：パレコウイルスA3型による流行性筋痛症の探知には症候群サーベイランスが有効である、第73回日本細菌学会東北支部総会、2019年8月23日、於盛岡市

講演等

- 1) 瀬戸順次：ダニ媒介感染症 山形市保健所第1回感染症予防研修会、2019年5月15日、於山形市
- 2) 水田克巳：パレコウイルスA3型による流行性筋痛症/筋炎 山形市保健所第2回感染症予防研修会、2019年6月26日、於山形市
- 3) 本間弘樹：山形県の特徴的な食中毒について 第28回山形県食品衛生推進大会 食の安全推進交流会 2019年7月18日、於山形市
- 4) Katsumi Mizuta: Epidemiology of viral infectious diseases in Yamagata, The 9th Seminar on Infectious Diseases Epidemiology, Tohoku University Graduate School of Medicine, 23rd July 2019, Sendai